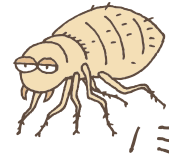




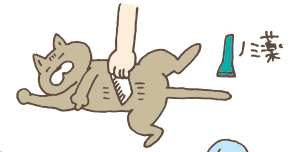
小さい子どもの場合、刺されてすぐより1~2日後に大きく腫れます。特に1~3歳は大人より強く腫れ、5~7日ほど続きます。その間にかき壊してとびひの原因になることもあります。アトピーの子どもの場合は特に症状が強くなります。



改善まで 約5~7日 **予防** ▶ 虫よけを使う
▶ 蚊取り線香 (喘息がある人は煙に注意)



太ももから下を刺されることが多いが、子どもはひざ上も刺されることがあります。数mmの小さな発疹がたくさんでき、かゆみと赤みが強く、水ぶくれになることも。2~3日でよくなり、1週間もすれば発疹は消えます。



改善まで 約3~7日 **予防** ▶ ペットのノミの駆除 (駆除シャンプーなど)
▶ ネコとの濃厚接触は避ける

蚊アレルギー (蚊刺過敏症)



蚊に刺されたときに38°C以上の熱や、リンパ節の腫れ、刺された場所に潰瘍ができた場合には病院で詳しく検査を。

蚊を媒介にする感染症

ヒトスジシマカによるデング熱やコガタカイエカによる日本脳炎などがあります。



山林の草むらなどに生息し、林間学校やアウトドアなどで刺されます。太ももから足首を刺されることが多いです。都会の大人も体がブヨに慣れていない場合が多く、症状は強く出ます。刺された直後は刺し口が出血します。水ぶくれになることも。



寝ている間に布団の奥から出てきて、特に子どもの柔らかい皮膚を刺します。かゆみは1週間くらい続きます。

特に注意! 6~9月

改善まで 約7日 **予防** ▶ 天気のいい日に布団を干す
▶ 部屋の換気
▶ こまめに掃除機

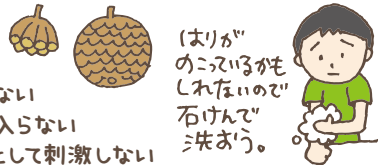


刺された直後から数時間以内に赤みや腫れ、痛みが出ます。数日でよくなります。

ハチが多いのは 5~10月 **特に8月**

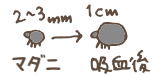
改善まで 数日

予防 ▶ ハチの巣に近づかない
▶ 不必要に藪の中に入らない
▶ ハチを追い払おうとして刺激しない
▶ 白っぽい服を着て、花模様や黒い服を避ける



ともに野山に生息するダニの一種。鹿や猪などが出る山や民家の裏山、畑、あぜ道に生息しています。命にも関わる重い病気を引き起こすことがあり、注意が必要。数週間は体調の変化に注意しましょう。ツツガムシは非常に小さく、刺されてもわかりません。野山に出かけて1~2週間以内に高熱、全身の発疹が出た場合には病院へ(刺し口があると診断がつきやすいですがわかりにくいこともあります)。

春~初夏・秋



改善まで 数週間は注意

予防 ▶ むやみに藪の中に入らない
▶ 野山に入るときは肌の露出を少なく
▶ マダニがわかりやすいよう白っぽい服装
▶ 現場と入浴時にダニチェック
▶ 虫よけを使う (ただしツツガムシにはディートのみ効果あり)



アナフィラキシーに注意!

以前ハチに刺されたことのある人が再度同種のハチに刺されるとショックを起こすことがあり、アナフィラキシーといえます。初めて刺されたときに起こることもあり、刺されて30分以内に起こることが多いです。刺されたあとで吐き気、めまい、じんましん、息苦しいなど症状がある場合は、座って休むのではなく、周囲の人に相談してすぐに病院に行ってください。1回アナフィラキシーを起こしたり、刺された部分の反応が異常に強い場合は、次に刺されたときにアナフィラキシーを起こすリスクが高いです。これらの場合はエピネフリン自己注射用キット(エピペン)を処方してもらう必要があります。スズメバチは集団で攻撃してくるので、一度にたくさんの場所を刺されると誰でもアナフィラキシーショックを起こすことがあります。

